



2012年9月20日
公益財団法人イオン環境財団
生物多様性条約事務局

「The MIDORI Prize for Biodiversity 2012」受賞者決定

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）と国連の生物多様性条約事務局は、厳正な審査のもと「The MIDORI Prize for Biodiversity 2012（生物多様性みどり賞）」の受賞者を決定しました。受賞者は、チリ カトリカ大学生態学部教授 フアン・カルロス・カスティーリャ博士、NGOコスタリカ生物多様性研究所代表 ロドリゴ・ガメス＝ロボ博士、ベトナム国家大学ハノイ校自然資源管理・環境研究センター名誉総長 ボ・クイ博士の3名です。

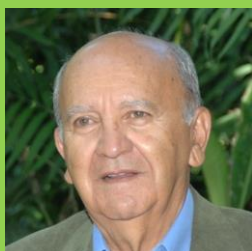
「The MIDORI Prize for Biodiversity」は、生物多様性の保全と持続可能な利用に関し、世界または地域レベルで顕著な功績のある個人を顕彰する国際賞です。2回目の開催となる本年は、50カ国以上145名の候補者が推薦されました。その中から、長年にわたる生物多様性の保全と持続可能な利用、主流化への貢献とともに、2010年の生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）で採択された「愛知ターゲット」や2011年にスタートした「国連生物多様性の10年」の推進において大きな寄与が認められた3名を顕彰いたします。

10月17日（水）には、インドのハイデラバードで開催されるCOP11の閣僚級会合に併せて授賞式を行います。また、10月22日（月）には、東京の国際連合大学にて受賞者フォーラムを開催し、受賞者の記念公演を行います。受賞者にはそれぞれ、表彰楯、記念品、副賞（10万USドル）が贈られます。

公益財団法人イオン環境財団は、これからもさまざまな取り組みを通して、生物多様性の保全と持続可能な利用の促進に貢献してまいります。



チリ カトリカ大学生態学部 教授
フアン・カルロス・カスティーリャ博士
南米における海洋生態学のパイオニア。政府、小規模な沿岸・海洋コミュニティ等との小規模海洋保護区の協働管理がグリーンエコノミーの形成に貢献可能であることを示した。



コスタリカ生物多様性研究所（インビオ）代表
ロドリゴ・ガメス＝ロボ博士
インビオにおける生物多様性インベントリー作成を通して生物多様性を独創的かつ具体性のある姿で提示。生物多様性の保全と利用に関する成功例を示した。



ベトナム国家大学ハノイ校
自然資源管理・環境研究センター名誉総長
ボ・クイ博士
戦争で疲弊した国土の緑化を通じて他の開発途上国における自然環境保全・修復の手本を示し、破壊された自然の再生が可能であることを示した。

※10月22日（月）開催のフォーラムお申し込み：http://www.aeon.info/ef/midori_forum/

【The MIDORI Prize for Biodiversity 2012（生物多様性みどり賞）について】

1. 実施体制

主催：公益財団法人イオン環境財団

共催：生物多様性条約事務局

2. 受賞者

フアン・カルロス・カスティーリャ博士（チリ）／チリ カトリカ大学生態学部 教授

フアン・カルロス・カスティーリャ博士は、海洋学者として生物多様性の保全と持続可能な利用を促す国の政策に関わり、生物多様性の損失および気候変動の有害な影響に対し、小規模海洋保護区における漁業資源を政府や沿岸・漁業コミュニティと共同管理することを提唱。この取り組みを通じて、小規模海洋保護区が零細漁業の生計向上、ひいてはコミュニティの持続的な発展、グリーンエコノミーの形成につながることを示しました。このようなコミュニティに根差した活動が広まり、各国のコミュニティにおいて生態系に基づいた管理が行われれば、愛知ターゲットの達成につながります。

また、沿岸および海洋の生物多様性は、近年、国際的に関心の高まっている課題のひとつで、リオ+20でも取り上げられました。これは、本年の「国際生物多様性の日」のテーマでもあり、COP11においても主要議題のひとつになると考えられています。海洋分野における博士の先駆的な取り組みは、沿岸・海洋の生物多様性にかけられている負荷を低減させるとともに、世界へ同様の活動を促すことが期待されます。

ロドリゴ・ガメス＝ロボ博士（コスタリカ）／コスタリカ生物多様性研究所（インビオ）代表

ロドリゴ・ガメス＝ロボ博士は、ブラジル リオ・デ・ジャネイロでの「地球サミット」に先立つ1991年に、ダニエル・ジャンセン博士と共に生物多様性インベントリー作成のインビオを設立しました。そこでは、パラタクソノミスト（分類補助員）を育てコスタリカの生物多様性インベントリー作成に多大な貢献をしました。あわせて学校教育への生物多様性のカリキュラムの導入にも尽力されました。設立以来、インビオを主導し、生物多様性を独創的かつ具体的に示したことは高く評価されています。

また、メガダイバーシティの国としてコスタリカの国土の25%を国立公園にすることを働きかけ、コスタリカに農業収入を上回るエコツーリズムによる収入をもたらしました。これは、開発と生物多様性の保全のバランスの問題を抱える熱帯諸国において生物多様性の保全と利用に関する先導的な役割を果たしています。科学的見地に基づきながら行政とともに行う博士の取り組みにより、生物多様性はコスタリカの国家アジェンダとなりました。

さらに博士の、世界分類学イニシアティブ、アクセスと利益配分といった生物多様性条約の主要テーマに貢献してきたことも高い評価の一つです。

ボ・クイ博士（ベトナム）／ベトナム国家大学ハノイ校自然資源管理・環境研究センター名誉総長

ボ・クイ博士は、戦争によって破壊された自然環境を再生し、ベトナムの国土の50%を森林として甦らせるという高い目標を掲げ、科学的見地からマスタープランを作成しました。この計画は国の環境政策に採用され、大きな成果を出しています。また、ベトナムの科学者を育成するとともに、科学者のコミュニティへの参画の促進にも尽力し、能力開発や環境に対する意識改革にも多大な貢献をしてきました。科学的手法を導入するとともに、コミュニティと協働するこの取り組みは、枯葉剤などの影響で深刻な状況にあった戦後の森林を再生し、生物多様性の豊かさの向上に大きく貢献しています。国あるいはコミュニティのレベルで科学的に自然環境を再生するこの活動は、他の開発途上国における自然環境の保全・修復のモデルとして高く評価されています。戦争による森林破壊と生物多様性の損失の増大は、世界が直面する問題であり、この取り組みはベトナムに限らず、世界の森林再生と生物多様性の保全に貢献すると期待されます。

3. 選考

(1) 選考の経過

2012年3月1日(木)から6月30日(土)までの期間、本賞ウェブサイトからの公募と有識者からのノミネーションにより候補者を募集いたしました。期間中、50カ国以上145名の受賞候補者が推薦され、有識者で構成された専門委員会による選考を経て、審査委員会による最終審査が行われました。

(2) 審査基準

受賞者には、これまでに生物多様性の保全等について世界的な観点で顕著な貢献が認められることに加え、生物多様性に関する貢献が今後も期待できることが求められます。さらに、受賞者の顕彰が世界的な観点で同様の取り組みの普及、推進等に貢献することが期待されています。そのため、候補者は次の7つの基準に基づいて審査されました。

①国際的な貢献 ②保全と持続可能な利用への貢献 ③社会への貢献 ④長期的な視点・継続性 ⑤創造性・新規性 ⑥市民性・総合性 ⑦実効性・波及力

(3) 審査委員会 (敬称略、アルファベット順)

審査委員長	岡田 卓也	公益財団法人イオン環境財団理事長
審査委員	ブラウリオ・フェレイラ・デ・ソウザ・ジラス	生物多様性条約事務局長
審査委員	岩槻 邦男	兵庫県立人と自然の博物館館長、東京大学名誉教授
審査委員	黒田 大三郎	環境省参与
審査委員	あん・まくどなるど	上智大学大学院地球環境学研究科教授
審査委員	中村 桂子	J T生命誌研究館館長
審査委員	涌井 史郎	東京都市大学環境情報学部教授
アドバイザー	アショク・コースラ	国際自然保護連合会長、 デベロップメント・オルタネイティブス代表

※The MIDORI Prize for Biodiversity ホームページ: <http://www.midoripress-aeon.net/jp/index.html>

【公益財団法人イオン環境財団について】

公益財団法人イオン環境財団は、平和の追求、人間の尊重、地域への貢献というイオンの基本理念に基づき、1990年に設立されました。当財団は、設立以来、植樹活動や資源の再利用、環境NGO・NPOの支援等に取り組んでいます。2009年には隔年開催の国内賞「生物多様性日本アワード」を創設し、国際賞である「The MIDORI Prize for Biodiversity」と交互に実施するなど、生物多様性の保全に取り組んでまいります。

公益財団法人イオン環境財団ホームページ: <http://www.aeon.info/ef/>

【生物多様性条約事務局について】

生物多様性条約(正式名称:生物の多様性に関する条約)は、1992年にリオ・デ・ジャネイロで開催された国連環境開発会議(地球サミット)で採択された国際条約の1つで、翌1993年に発効しました。同条約は、生物多様性の保全とその構成要素の持続可能な利用、遺伝資源の利用から生じる利益の公正な配分を目的としています。

日本は1992年に署名し、翌年加盟しました。2012年7月現在の加盟国は193カ国です。生物多様性条約事務局はカナダのモントリオールにあり、国連環境計画(UNEP)の下で運営されています。

生物多様性条約事務局ホームページ: www.cbd.int/

【本件に関するお問い合わせ先】

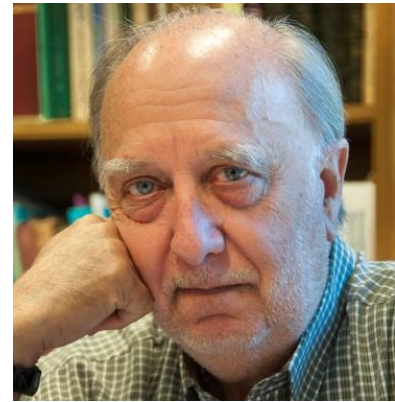
イオン(株)コーポレート・コミュニケーション部 高濱 Tel: 043-212-6061

ご参考

【The MIDORI Prize for Biodiversity 2012 授賞理由および受賞者の経歴】

フアン・カルロス・カスティーリャ博士（チリ）
／Dr. Juan Carlos Castilla (Chile)

1940年生まれ
チリ カトリカ大学生態学部 教授
Professor, Department of Ecology, Pontificia
Universidad Catolica de Chile



フアン・カルロス・カスティーリャ博士は、天然資源の持続可能な利用を行う上で重要となる禁漁区および管理水域の研究で知られています。「南米における海洋生態学のパイオニア」と言われるカスティーリャ博士はカトリカ大学生態学部の教授として海洋生態学、群集生態学を教えているほか、25年以上前に禁漁区研究の拠点となったチリのラスクルーセスにある沿岸海洋調査ステーションの局長を18年にわたって務めています。

禁漁区での長期的研究において、カスティーリャ博士は「人間が除外された」禁漁域および季節的な禁漁を調べるため、地域の漁協と協力して実験を行いました。博士は、カトリカ大学実験所に作った小規模海洋保護区を通じて、海洋保護区が周辺海域の資源の増産や生物多様性の保全につながることを科学的に証明しました。この成果をもとに、小規模海洋保護区と持続可能な漁業の組み合わせを提唱し、チリ全体に広めました。

こうした取り組みは、チリの漁業・養殖業法、とりわけ底生生物資源の管理に大きな影響を与えただけでなく、資源の持続的利用と沿岸生態系の保存において零細漁業が果たす役割を明確にし、チリ沿岸地域での零細漁業を保護する制度をチリで実現しました。また、Jane Labuchenko 教授、Bruce Menge 教授、Steve Gaines 教授らチリやアメリカの研究者とともに、PEW財団海洋保全プロジェクト、メロン財団沿岸生態系プロジェクト、沿岸海洋学際研究パートナーシップ等の事業に参画しており、これらのプロジェクトについて60以上の論文を発表しています。

こうした活動は、沿岸所有権や管理・開発水域、共同管理に関連したカスティーリャ博士の理論と実践により高い成果をあげています。また、生物多様性の保全と持続的利用の両立において、零細漁業の役割を世界で認知させ、生物学だけでなく新たな法制度の提案までを担ったことは、世界における生物多様性に関する取り組みにおいて発展的な影響力を持っています。

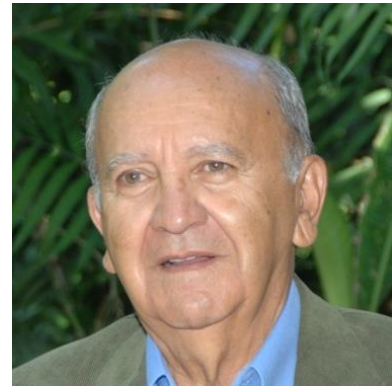
現在、博士は30以上の大学に招聘され、講義やセミナーを行っており、250以上に及ぶ論文を発表しています。また、海洋公園ならびに保護区に関する先駆的な活動、沿岸資源の共同管理、海洋生物多様性の保全における業績が認められ、数々の賞を受賞しています。

【主な受賞歴】

- 1996年 第3回世界科学アカデミー賞 生物学部門
- 2006年 BBVA財団科学研究賞 生態学・保全生物学部門（アルゼンチンBBVA財団）
- 2010年 国家応用科学技術賞（チリ政府）
- 2011年 レイモン・マルガレフ賞（スペイン、カタローニャ地方政府）
- 2012年 野生生物保全賞（アメリカ、野生生物保全協会）

ロドリゴ・ガメス=ロボ博士（コスタリカ）
／Dr. Rodrigo Gamez-Lobo（Costa Rica）

１９３６年生まれ
コスタリカ生物多様性研究所（インビオ）代表
President, Instituto Nacional de Biodiversidad (INBio)



ロドリゴ・ガメス=ロボ博士は、１９６６年、イリノイ大学で植物ウイルス学の博士号を取得。１９５８年から１９９０年までコスタリカ大学教授として、同大学の植物科学学校所長、研究部門副学長、細胞分子生物学研究センター所長等を歴任しました。中央アメリカにおける農作物のウイルス、虫による植物ウイルスの媒介、ウイルスの分子特性化などを専門分野としています。また、コスタリカ研究評議会、熱帯研究機関、アメリカ植物病理学会カリブ海部門など国内外で数多くの委員を務め、現在は、コスタリカ科学アカデミーの委員として国内の教育や、持続可能な開発に関わる業務に携わっています。

ガメス博士は、オスカー・アリアス大統領の生物多様性顧問（１９８６～１９９０年）として、コスタリカの自然資源省（現在の環境省）内に保護地域のための国家システムを設立し、政策の立案にも大きく寄与しました。また、インビオを創設するとともに同研究所の所長に就任し（１９８９～２００３年）、創設時から現在に至るまで同研究所委員会の代表を務めています。インビオは、生物多様性に関する情報の作成、管理、発信を行う主導的な機関として成長し、生物多様性に関する研究所の世界的なモデルとなりました。コスタリカ環境省と緊密に連携・協力しながら、インビオはコスタリカの生物多様性インベントリー作成、情報整理・処理、国内外への情報の提供を行っています。その活動分野は、インベントリー作成・モニタリング、教育・バイオリテラシー、生物資源調査、政策・法規制、土地利用管理・技術支援、能力開発など多岐にわたり、数々の国内賞、国際賞を受賞するなど高く評価されています。

また、ガメス博士は、生物多様性の保全に関わる様々な国内・国際イニシアティブに携わり、世界資源研究所（WRI）、国際自然保護連合（IUCN）、国連環境計画（UNEP）により１９９２年に取りまとめられた「生物多様性戦略」の作成にも大きく寄与しました。さらに、コスタリカ政府代表として、生物多様性条約の作成において主導的な役割を果たし、UNEPの生物多様性関連の顧問委員会委員として活動し、コスタリカ環境省 生物多様性研究諮問委員会のコーディネーションにも携わっています（１９９４－１９９８年）。この諮問委員会は、コスタリカ生物多様性法の制定と生物多様性国家戦略の策定において、根幹となる役割を果たしました。ガメス博士は、著作・講演活動を通じて、生物多様性の保全と持続可能な開発に関し、コスタリカがパイオニアとして多大な貢献をしてきたことを広く世界に発信しました。

【主な受賞歴】

- １９８３年 Bernardo Houssei 賞 科学部門
- １９９２年 ピーター・スコット卿賞（IUCN種の保存委員会、インビオとして受賞）
- １９９２年 バネスト栄誉賞（スペイン、バネスト文化財団）
- １９９５年 スペイン・アストゥリアス皇太子賞 科学・技術部門（インビオとして受賞）
- １９９７年 栄誉メダル賞（宇宙探検家協会）
- ２００４年 緑の地球賞（アメリカ、NGOレインフォレスト・アライアンス）
- ２００４年 優秀科学者賞（コスタリカ科学技術省）
- ２００７年 名誉博士号（熱帯農業研究・教育センター）
- ２０１０年 名誉教授（コスタリカ大学）
- ２０１１年 マゴン賞（コスタリカ政府文化・青年・スポーツ省）

ボ・クイ博士（ベトナム）／Dr. Vo Quy (Viet Nam)

1929年生まれ

ベトナム国家大学ハノイ校自然資源管理・環境研究センター
名誉総長

Honorary President, Centre for natural Resources
Management and Environmental Studies (CRES), Vietnam
National University, Hanoi



ボ・クイ博士は、ベトナム高等師範学校で生物学を学んだ後、1956年からハノイ大学（1945年ベトナム国家大学ハノイ校となる）で教鞭をとり、1960年代初頭にモスクワ大学に留学し、1966年に鳥類学の博士号を取得しました。その後、ベトナム国家大学ハノイ校動物学の教授に就任し、現在まで同大学の教授を務めています。

ベトナム戦争下、博士は他の研究者と共に非武装のまま数多くの戦闘地域に入り、密生する熱帯林や農地が枯葉剤の影響で広範囲にわたって荒廃しているという状況を目の当たりにし、国土を再び緑化することの重要性を強く認識しました。博士は1971年から1985年まで「南ベトナムの環境および生活資源に対する枯葉剤の長期的影響調査」リーダー、1985年から1990年まで「枯葉剤の影響に関する委員会」副議長として戦争の影響で荒廃した森林の再生に尽力しました。

1985年には、環境問題に関するベトナム初の研究および訓練機関である自然資源管理・環境研究センター（CRES）をハノイ大学に創設しました。同センターで博士は、他の科学者たちと協働で、国土の50%の森林を復元させることを目標にマスタープランを作成、この計画は国家の環境戦略として採用されています。1989年には科学者チームのリーダーとして「ベトナム環境保護法」の作成に関わる等、環境保護の国策の作成に際して中心的な役割を果たしました。さらにCRESの若手科学者が、保護区の管理やベトナムの自然保護の必要性を示すガイドラインを提示し、住民が進める環境保全事業や環境政策の推進に貢献する等、人材育成にも貢献しています。

また、戦争の影響で絶滅したと思われたヒガシオオヅルを発見するとともに、インドシナ半島での渡り鳥保護協定の締結など保護活動に尽力し、1988年には1,000羽以上の飛来に貢献するなど野生生物保護においても多大な貢献をしています。1986年からは、国際自然保護連合（IUCN）のメンバーとして、絶滅の危機にある野生生物種の保全に尽力してきました。また数年にわたり世界自然保護基金（WWF）、国連環境計画（UNEP）、ユネスコ「人間と生物圏」計画（MAB／UNESCO）と緊密に協働するなど、国際的にも広く生物多様性の保全に貢献しています。

国土の自然を保全し、再び緑化するために、住民が主体となって進める環境活動を積極的に推進してきた博士は「ベトナム環境保護の父」と呼ばれており、ベトナムの荒廃した自然環境の保全・修復に関する努力と成果は、同様の課題を抱える開発途上国の模範となっています。

【主な受賞歴】

- 1988年 WWF香港ゴールド・メダル
- 1992年 UNEPグローバル500 リオ・デ・ジャネイロ
- 1994年 IUCNジョン・フィリップス・メモリアル・メダル・ブエノスアイレス
- 1994年 ブルーノ・H・シューベルト財団環境賞カテゴリーI（フランクフルト）
- 1995年 PEW研究者賞（アメリカ、ミシガン大学）
- 1997年 オランダ王国金約櫃勲章
- 2003年 ブループラネット賞
- 2008年 タイムズ誌「Heroes of the Environment」選出